

第17回テーマ：六甲山を子供達の遊び場に



野外で自由に遊ぶ

講演内容

- ①山の中っておもしろい？
- ②子供達って勝手に遊ぶもの？
- ③大人ってどう関わるの？

野外活動

記念碑台付近で遊ぶ

実施日：平成16年8月21日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：越智 正篤さん

プロフィール

1956年神戸市生まれ。
大阪体育大学体育学部卒業。
幼稚園職員を経て、1989年、有限会社ワールド・オブ・ゆうを設立。
2003年、NPO法人Spaceを設立。

「おっちゃん」と2人のお兄さん

街中の30℃を超える暑さに比べて自然保護センターは25℃と爽やかでした。快晴の中、予定通り野外活動も行いました。参加人数は40名でレクチャールームは子供の元気な声で賑わいました。

講師の越智正篤さんは「僕のことをおっちゃんと呼んでな」と、気さくな挨拶をされて講演は始まりました。講演の間、退屈しかけた子供達は、越智さんのところに所属する男性スタッフの坂田さん、金坂さんと一緒に外で遊び、保護者は、じっくりと話をきくことが出来ました。

「知覚動考」って何て読むの？

六甲山麓での野外保育で活動する子供の姿をビデオで紹介いただきました。越智さんが活動の軸とされている「知覚動考」の言葉を知りました。

大人の「危ない、汚れる」の一言が子供の遊びを制限していることに気付き、体験から学ぶ大切さ、経験を積む過程の重要性を見直しました。「小さなケガはさせても大きなケガはさせない」最小限の援助や関わり方について目を開きました。



親子で熱心に話をきく

小さな冒険を見守るのも冒険

全員で野外活動に出発しました。自然保護センターから東へ約10分の位置にある、山崎さんの雑木林をお借りして遊びました。子供達は、最初は斜面を恐る恐る登っていましたがすぐに慣れ、池に石を投げて遊ぶ等、夢中で楽しむ姿がありました。越智さんとスタッフは子供達の挑戦を傍で見守り、親達もいつもの口は出さず、離れたところでじっと見守りました。親子共に、いつもとちょっと違う体験ができ、満足の一時間半でした。

遊べる雑木林が見つかった

今回の講演にあたり、越智さんは六甲山上で活動できる場所探しに苦労されました。山崎さんのご好意で最適地に出会いました。ハイキング道から外れたところにある魅力ある環境を再発見できたことが、今回のセミナーの大きな成果です。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 石橋 雅子さん

「六甲山の秘密基地おもしろかった！」と今も思い出しては息子が話してくれます。今どきのおもちゃや道具がなくてもこんなに楽しめるんだということを改めて実感しました。

「知覚動考（ともかくうごこう）」、これを機に子供だけでなく親も実践していきたいと思います。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



第17回テーマ:六甲山を子供達の遊び場に



第17回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ 13:00~13:15
 講演 13:15~14:05
 野外活動 14:05~15:25
 懇親会 15:30~16:00

講演内容

- ・山の中っておもしろい?
- ・子供達って勝手に遊ぶもの?
- ・大人ってどう関わるの?

野外活動



はじめに(越智 正篤さん)



おっちゃん

「僕のことを、おっちゃんと呼んでなー。」ニコニコ顔で子供達に自己紹介。27~8年間、子供と一緒に好き勝手に遊んでいます。野外活動は20年以上になりますが、アウトドアの専門家ではありません。この活動の中で、子供から教わった事はいっぱいあります。

「知覚動考」私はこの言葉が好きで、大事にしています。さて、なんと読むのでしょうか?考えてみて下さい。後でお話ししますが、ちょっと頭の隅に置いていて下さい。

講演内容

同じところへ行くおもしろさ

山の中って、本当におもしろい?「汗をかく、しんどい」大半の人がそう思いがち。また、景色を見て「きれいだった」で、そのまま帰ることもあるが、得られる感動はそれだけか疑問に感じる。同じところへ子供を何回も連れて行くと、そのうち親が違う場所へ連れて行って欲しいと言いつつ、同じところでもいいと思う。故郷と一緒。同じ場所だからといって同じものを目にするとは限らない。季節や天候によって見えるもの、聞こえるもの全てが変わる。この違いを感じとれる感性を持つことが大切であり、価値があると思う。

遊びから育つ子供達の事例紹介

越智さんは、幼児学童を対象に自然体験の実践を進められている。今回は活動地の一つである御影山手の北、坊主山でのユニークな活動をビデオで解説を交えながら紹介いただいた。

2~3歳の子のガケ登り。自分で登り出す。スタッフは、子供が大げがをしないように見守る。服が汚れることを気にしないこと。

降りる時も、スタッフは最小限の援助。支えたり手を持ったりはしない。



自分の力で登る/事例

毎年挑戦して、失敗でも成功でも自分なりに納得する。落ち葉が積もった坂道をすべりながら降りる。最初は恐くても遊びに変わってくる、この経験が大事。

雨の日でも元気に遊ぶ。雨ならではのおもしろさがある。雨の方が生き物にも出会うチャンスも多く、晴れの日とは違う環境に発見がある。



お尻ですべて降りる/事例

子供が遊びを選択する

いつも遊ぶ場所をどこにするか、子供達と相談をして現場に行く越智さん。決してスタッフから遊びの誘いはしない。この前遊んだ場所がどうなったのか、確かめに行くのも遊びの一つ。自然には偶然の出会いしかない。その時にしかない発見を大事にしたい。

危ないことを知らないのが危ない

親が危ないことをさせないと、子供は何が危ないのか分からなくなる。危なさの限度を知らないことが、本当に「危ない」のである。「何で遊ぶのか?何をしてくれるのか?」と最近子供が受け身になりすぎている。現場へ行って体験する事が大事。プロセス(過程)の繰り返しが成長につながる。



ビデオをじっと見る
谷口こもちゃん

小さなケガはいい、大人は大ケガだけさせないように最小限の援助の関わり方をしよう。最近、学校の管理問題を過剰に問うなど、安全を気にしすぎなのではないだろうか?

「知覚動考」~ともかくうごこう~

「知覚動考」を活動の軸にしている。ともかくうごいてみる。失敗したら工夫を考える。大人は子供が理屈抜きに動くことを、勝手に止めてしまっている。大人の関わりはどうするのが、とても重要。遊ぶことの大切さや、親の関わり方を改めて考えて欲しい。

野外活動

山崎さんの雑木林に到着

越智さんと子供達を先頭に、自然保護センターを出発。六甲山小学校を過ぎたところにある山崎さんの敷地の雑木林に到着。子供達は、最初は様子を見ながら、少しずつ慣れて斜面を登りだした。

2歳の谷口聡碩君も斜面登りにチャレンジ。池に大きな石を投げて遊んだり、伐採した木で基地を作ったりと、大はしゃぎの1時間であった。

この間、保護者はじっと子供達の行動を見守った。

「エンジンかかってきたところやけど、時間やからセンターに帰るよー。」と越智さんの掛け声。もう少し遊びたい気持ちを抑えて、渋々、自然保護センターへ戻った。



伐採した木で基地づくり

センターへ戻って ～越智さんのまとめ～

今日やったことは、昔の子がしていたことをしただけです。昔は野外で遊び、親が放っていても遊んでいた。しかし今は、その環境を見つけることも難しい。昔の環境がなくなったことを問いかけて。また昔は遊びにお金はいらなかった。ところが今は、遊ぶのに何かと費用がかかる。これはおかしいと思う。お金なしで遊べる環境が欲しい。公園でも遊具だけで遊ぶのではなく、遊具の周りで遊ぶことが大切。横道をそれて欲しいですね。

今回は、雑木林の持ち主の山崎さんに承諾を得て私有地を使わせてもらった。山崎さんが良い方で、伐採した木をそのままにしておいて下さった。

六甲山はフェンスや柵があって、道から外れたところにいけない。ちょっと外れたところに小さな冒険のできる場所がある。今後、私有地の了解を得られれば活動が広がる。この遊びを維持出来るように支援をお願いします。

参加の感想 寺田 由香さん

越智先生のビデオを拝見し、「あれ、うちの子と同じことしてる…」スクリーンの中のスタッフは見守る姿。それに比べて私とえば、大人の目線で怒る姿でした。



実際外に出て何も無い山の中で楽しそうにして走り回る息子。今までちょっとした坂道でさえ、手をつないで離そうとしなかった娘が、自分から急な坂道を登ったり下ったり。そんな姿を見て、何か忘れていたものを思い出した様な、そんな気持ちになりました。

環境の時代も変化して、子供達が安心して真の姿で遊び学べる場所が少なくなったのは事実ですが、子供の心をいつまでも大切にしたいと感じました。

参加者の声

孫と一緒に参加しました。自分も一緒に遊んでしまいました。(中務勝子さん)

他の野外体験プログラムを見て、スタッフの意図が出過ぎて、子供達の自然に対する感性を育む障害になっているのではないかと疑問を抱きました。越智さんの実践内容を参考にしたいと思い、参加しました。(高橋敬三さん)



優花ちゃん和中務さん



高橋 敬三さん

事務局より

今回のセミナーで、40人が「良かった」と感動した。枠にはめたカリキュラムの実行にこだわらないこと、子供を見守る勇気を大切にしたい。

◆参考・配布資料など：

- ・園外保育で運動遊び
月刊「保育とカリキュラム」2000年10月号より一部抜粋
- ・活動紹介のファイル(回覧)

越智さんへのお問い合わせは下記まで

連絡先：有限会社フィールド・オブ・ゆう
〒657-0816 神戸市灘区国玉2-8-3ル・パレ国玉3階
Tel (Fax) : 078-882-7234
E-mail fieldyou@osk4.3web.ne.jp
http://www.fyou.co.jp/index.html

☆参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者：40名(順不同・敬称略、子供はゴシック)
越智 正篤 坂田 喜一 金坂 尚人 八木 浄
小坂 忠之 村上 定広 高光 正明 青木 孝子
石田 澄子 安永 純子 安永百合子 澤田 中
谷口のりえ 谷口喜太郎 谷口こもよ 谷口 大和
石橋 雅子 石橋 航大 山本 大貴 佐藤 昌枝
中務 勝子 中務 優花 寺田 由香 寺田 伊織
寺田 まな 谷口 純子 谷口美咲子 谷口 聡碩
泉 美代子 岩島 年子 高橋 敬三 小柴 康子
小柴 元哉 萩野 由美 堂馬 英二 米村 邦稔
中川貴美子 小野 律子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝